

大阪医科大学学報

第46号 平成12年11月



フィレンツェ ポンテベッキオ橋

◆目

次◆

規程関係	2~3
人事	4~7
(法人・採用、退職、昇任・異動、 休職・復職、委嘱・解嘱、 海外渡航)	
寄附金	
特別寄稿	9
日中友好病院長本学を表敬訪問	10
助成金・科研費関係	10
平成13年度入試要項	11~14

教室紹介	15~16
海外出張記	17~18
短期海外留学記	19
学内行事	20~21
会議・行事予定	22~23
附属病院関係	24
保健管理室からのお知らせ	25~26
俳句	27
お詫びと訂正	27

規程関係

大阪医科大学学則の一部改正について

大阪医科大学学則が次のとおり改正されました。

■大阪医科大学学則（関係条文新旧対照表）

新						旧							
第7章 授業料その他の納入金 (授業料その他の納入金) 第36条 授業料その他の納入金、及び納入期限は、次のとおりとする。 (第1学年次)						第7章 授業料その他の納入金 (授業料その他の納入金) 第36条 授業料その他の納入金、及び納入期限は、次のとおりとする。 (第1学年次)							
期 間	納入期限	納 入 金 額			計	期 間	納入期限	納 入 金 額			計		
		授 業 料	実 習 料	施設拡充費				授 業 料	実 習 料	施設拡充費			
第1期	入学時	610,000円	120,000円	410,000円	1,140,000円	第1期	入学時	600,000円	120,000円	400,000円	1,120,000円		
第2期	9月15日	600,000円	120,000円	400,000円	1,120,000円	第2期	9月15日	600,000円	120,000円	400,000円	1,120,000円		
第3期	1月15日	600,000円	100,000円	400,000円	1,100,000円	第3期	1月15日	600,000円	100,000円	400,000円	1,100,000円		
合 計		1,810,000円	340,000円	1,210,000円	3,360,000円	合 計		1,800,000円	340,000円	1,200,000円	3,340,000円		
(第2学年次以降)						(第2学年次以降)							
期 間	納入期限	納 入 金 額				計	期 間	納入期限	納 入 金 額				計
		授 業 料	実 習 料	施設拡充費	教育充実費			授 業 料	実 習 料	施設拡充費	教育充実費		
第1期	4月15日	610,000円	120,000円	410,000円	900,000円	2,040,000円	第1期	4月15日	600,000円	120,000円	400,000円	900,000円	2,020,000円
第2期	9月15日	600,000円	120,000円	400,000円	—	1,120,000円	第2期	9月15日	600,000円	120,000円	400,000円	—	1,120,000円
第3期	1月15日	600,000円	100,000円	400,000円	—	1,100,000円	第3期	1月15日	600,000円	100,000円	400,000円	—	1,100,000円
合 計		1,810,000円	340,000円	1,210,000円	900,000円	4,260,000円	合 計		1,800,000円	340,000円	1,200,000円	900,000円	4,240,000円
2		(省 略)					2		(省 略)				
1		(省 略)					1		(省 略)				
2		(省 略)					2		(省 略)				
3		(省 略)					3		(省 略)				
4		(省 略)					4		(省 略)				
附 則 この改正は、平成13年4月1日から施行する。 但し、平成12年度以前から在学する者については、改正後の第36条の規定にかかわらず、なお従前の例による。													

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程が「研究協力室」を新たに設置すること等により、本年10月1日から、次のとおり改正されました。

第2条

総務部に「研究協力室」を加える。

第3条

第1項 部、課の次に「及び室」を、課に課長（事務長）の次に「及び室に室長代理」を加える。

第2項 婦長の次に「及び婦長代理」を加える。

第5条

第1項 総務部

総務課 「8. 各種助成金、補助金の申請の事務に関すること。」を削除し、以後の号数を繰り上げる。

管財用度課 「3. 附属設備の改造及び営繕」を「3. 附属設備、施設の営繕及び保守管理」とする。

「8. 講座研究費、受託研究費、奨学寄附金に関すること。」を削除し、以後の号数を繰り上げる。

管財用度課の後に

- 「研究協力室
1. 教育職員の研究事務に関すること。
 2. 付置研究センター及び共同利用施設の運営に関すること。
 3. 講座研究費、受託研究費及び奨学寄附金に関すること。
 4. 研究に係る各種補助金、奨励金及び助成金に関すること。
 5. 科学研究費補助金に関すること。
 6. 研究に係る調査、統計及び諸報告に関すること。
 7. 他の大学研究機関及び企業との連絡に関すること。
 8. 研究成果の技術移転の事務に関すること。
 9. 研究に係る会議及び各種委員会の事務に関すること。
 10. その他、研究に係る事務全般に関すること。」を加える。

病院事務部

病院サービス課 8. の次に

「9. 病院に関わる広報に関すること。」を加え、以後の号数を繰り下げる。

施設課 「1. 大学及び病院の施設課が主管する建物、施設及び設備等の営繕、保守点検に関すること。」を加え、以後の号数を繰り下げる。

2. 「機械、設備」を「附属設備、機械」とする。

人 事

法 人

理事

10.10 重 任 東 郁郎

顧問

7.31 退 任 森 日出男

8.1 就 任 西島 文年

施設計画事業本部

10.1 学校法人大阪医科大学施設計画事業本部付兼務
施設計画事業本部新総合棟(病院7号館)部門担当
施設計画事業本部(YMCA部門)担当
病院医療情報部企画課長
兼施設事業本部事務部長代理
岩本 暢泰

採 用

8.16 看 護 婦 岸本理恵子 (病院看護部)
9.1 助 手 村松 理子 (薬理学)
〃 〃 出馬 晋二 (産婦人科学)
〃 〃 中嶋 秀人 (内科学Ⅰ)
〃 〃 丸山 成一 (形成外科学)
〃 〃 池永 透 (脳神経外科学)
9.20 契約職員 寺本 健一 (栄養給食課)
10.1 外国人教員(助手) 李 忠連 (解剖学Ⅰ)
10.1 助 手 岩垣 明隆 (附属病院)
10.1 〃 愛宕 利英 (耳鼻咽喉科学)
10.16 〃 南 徹 (皮膚科学)
〃 看 護 婦 児島 恵子 (病院看護部)
11.1 助 手 佐藤 直美 (産婦人科学)
〃 〃 宮地 克彦 (内科学Ⅱ)
〃 〃 佐藤 元 (脳神経外科学)

退 職

8.15 助 手 前島 精治 (皮膚科学)
8.31 講 師 塩田 直孝 (薬理学)
〃 〃 篠田 恵一 (内科学Ⅰ)
〃 助 手 文元 裕道 (形成外科学)
〃 技 術 員 高山ひとみ (病院薬剤部)
〃 〃 中島美佐子 (病院薬剤部)
〃 看 護 婦 宮内 千恵 (病院看護部)
9.30 学内講師 福田 泰樹 (内科学Ⅰ)
〃 助 手 中村 雅宏 (耳鼻咽喉科学)
〃 看 護 婦 氏本 智子 (病院看護部)
〃 〃 和泉 直子 (病院看護部)
10.9 助 授 竹田 喜信 (内科学Ⅱ)
10.31 看 護 婦 高岡 美貴 (病院看護部)

昇任・異動

9.1 放射線科事務員 喜多 哲子 (医事課事務員)

10.1 内科学Ⅰ 助手 横野 茂樹 (附属病院)
〃 内科学Ⅰ 講師 関 庚燁 (学内講師)
〃 施設事業本部事務部長代理兼務
岩本 暢泰 (病院医療情報部企画課長)
〃 病院看護部看護婦主任代理
野田志登美 (看護婦)
〃 総務部研究協力室長兼務
大槻 哲彦 (財務課長)
〃 総務部研究協力室事務員
吉田 有里 (管財用度課事務員)
〃 総務部研究協力室事務員
菊田真理子 (総務課事務員)
〃 総務部研究協力室事務員兼総務部財務課事務員
足立 恵美 (財務課事務員)
10.16 形成外科学助教授
上田 晃一 (講師)

休 職

9.25 助 手 小森 剛 (放射線医学)

復 職

10.1 学内講師 岸川 匡彦 (病態検査学)

委 嘱・解 嘱

【 委 嘱 】

自己点検・評価組織委員会小委員会(附属病院部会)委員長

4.1 附属病院副院長・教授
竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)

内科診療科編成委員会委員

4.1 附属病院長・教授
植木 實 (産婦人科学)
〃 教 授 花房 俊昭 (内科学Ⅰ)

病院経営検討委員会委員

4.1 理事・附属病院長・教授
植木 實 (産婦人科学)

ハイテク・リサーチ・センター運営委員会委員

7.1 助 手 大場 創介 (形成外科学)

カテーテル(血管造影)検討委員会委員

7.1 助 手 山本 和宏 (放射線医学)

新入学生外合宿企画実行委員会委員

7.19 教 授 鈴木 廣一 (法医学)
〃 〃 池田 恒彦 (眼科学)
〃 講 師 森 禎章 (生理学Ⅱ)

救急医学カリキュラム作成委員会副委員長

7.19 診療助教授 石原 正 (内科学Ⅰ)

総合試験委員会委員

7.19 助 授 草壁 秀成 (皮膚科学)

7.19	助 教 授	上田 陽彦	(泌尿器科学)
〃	講 師	大塚みき子	(麻醉科学)
〃	〃	寺井 陽彦	(口腔外科学)
〃	〃	山口 淳	(リハビリテーション科)
〃	学 内 講 師	梶本 宜永	(脳神経外科学)
〃	助 手	高谷 竜三	(小児科学)
〃	〃	宮崎 彩子	(病態検査学)
〃	〃	大宮 由香	(形成外科学)
〃	非常勤講師	大野 正博	
9. 1	学 内 講 師	関 庚燁	(内科学 I)
9. 6	〃	白田 寛	(衛生学・公衆衛生学)

平成11・12年度機器共同利用センター運営委員会委員

8.16	助 手	徐 信夫	(皮膚科学)
9. 1	助 教 授	伊東 重徳	(化 学)

内科カリキュラム作成委員会委員

9. 1	講 師	杉野 正一	(内科学 I)
------	-----	-------	---------

内科カリキュラム検討委員会委員

9. 1	講 師	杉野 正一	(内科学 I)
------	-----	-------	---------

OSCE実行委員会委員

9. 1	教 授	花房 俊昭	(内科学 I)
〃	講 師	杉野 正一	(内科学 I)

中山国際医学医療交流センター運営委員会委員

9. 6	附属看護専門学校長	勢川瑠美子	(附属看護専門学校)
------	-----------	-------	------------

客 員 教 授

9.16	村 上 泰
10. 1	糸 川 嘉則
10.16	酒 谷 薫

外科系OSCE委員会委員

9.20	助 教 授	森田 眞照	(一般・消化器外科学)
〃	〃	後山 尚久	(産婦人科学)
〃	〃	河田 了	(耳鼻咽喉科学)
〃	〃	上田 陽彦	(泌尿器科学)
〃	診療助教授	豊田 昌夫	(一般・消化器外科学)
〃	〃	近藤敬一郎	(胸部外科学)
〃	〃	瀬本 喜啓	(整形外科)
〃	〃	菅澤 淳	(眼科学)
〃	講 師	三宅 裕治	(脳神経外科学)
〃	〃	大塚みき子	(麻醉科学)
〃	〃	上田 晃一	(形成外科学)

外科系OSCE委員会委員長

9.20	助 教 授	森田 眞照	(一般・消化器外科学)
------	-------	-------	-------------

YMCA施設利用委員会委員

9.20	教 授	古谷 榮助	(化 学)
〃	〃	山崎 隆司	(ドイツ語)
〃	〃	大槻 勝紀	(解剖学 I)

9.20	教 授	窪田 隆裕	(生理学 II)
〃	〃	花房 俊昭	(内科学 I)
〃	〃	阿部 宗昭	(整形外科)

YMCA施設利用委員会委員長

9.20	教 授	阿部 宗昭	(整形外科)
------	-----	-------	--------

治験審査委員会委員

10. 1	教 授	宮崎 瑞夫	(薬理学)
〃	〃	勝 健一	(内科学 II)
〃	〃	玉井 浩	(小児科学)
〃	〃	島原 政司	(口腔外科学)
〃	看護部長	神谷美佐子	(病院看護部)
〃	病院薬剤部長	付薬剤部長代理	兼課長
		足立 憲彦	(病院薬剤部)
〃	財務課長	大槻 哲彦	(総務部)
〃	学外学識者	中村 幸市	

治験審査委員会委員長

10.11	教 授	宮崎 瑞夫	(薬理学)
-------	-----	-------	-------

学 内 講 師

10. 1	助 手	横野 茂樹	(内科学 I)
〃	〃	李 忠連	(解剖学 I)
11. 1	〃	徐 信夫	(皮膚科学)

健康管理医兼衛生管理者

10. 1	助 手	岩垣 明隆	(附属病院)
-------	-----	-------	--------

実験動物センター運営委員会委員

10. 1	助 手	星賀 正明	(内科学 I)
-------	-----	-------	---------

「良医育成体制の在り方；臨床の視点より」委員会委員

10. 4	学生部長・教授	阿部 宗昭	(整形外科)
〃	教 授	花房 俊昭	(内科学 I)
〃	〃	米田 博	(神経精神医学)
〃	〃	玉井 浩	(小児科学)
〃	〃	谷川 允彦	(一般・消化器外科学)
〃	〃	勝岡 洋治	(泌尿器科学)
〃	〃	竹中 洋	(耳鼻咽喉科学)

「良医育成体制の在り方；臨床の視点より」委員会委員長

10.18	教 授	米田 博	(神経精神医学)
-------	-----	------	----------

附属看護専門学校校医

10.16	診療助教授	平田 一郎	(内科学 II)
-------	-------	-------	----------

学校法人 大阪医科大学経営(組織・人事制度策定) 専門委員会委員

10.26	理 事	美濃 眞	
〃	〃	植木 實	(産婦人科学)
〃	教 授	山崎 隆司	(ドイツ語)
〃	〃	鈴木 廣一	(法医学)
〃	〃	阿部 宗昭	(整形外科)
〃	〃	竹中 洋	(耳鼻咽喉科学)
〃	助 教 授	森田 眞照	(一般・消化器外科学)

人 事

10.26	人事課長 成松 正治 (総務部)	8.27~ 9. 3	フランス (ヴェルサイユ)
〃	病院サービス課長 出坂 秀雄 (病院事務部)		康 純 (神経精神医学助手)
〃	看護事務課長 斉藤千鶴子 (病院看護部)		稲田 泰之 ()
【解 嘱】		8.29~ 9. 9	イタリア (フィレンツェ) 他
自己点検・評価組織委員会小委員会(附属病院部会)委員長			福田 泰樹 (内科学I学内講師)
3.31 附属病院副院長・教授		8.29~ 9.10	イタリア (フィレンツェ)
清水 章 (病態検査学)			関 庚輝 (内科学I学内講師)
内科診療科編成委員会委員		8.30~ 9. 8	イギリス (ヨーク)
3.31 附属病院長・教授			玉山 卓己 (解剖学II助手)
佐々木進次郎 (胸部外科学)		9. 1~ 9. 9	イギリス (ヨーク)
病院経営検討委員会委員長			伊藤 裕子 (解剖学I講師)
3.31 理事・附属病院長・教授		9. 1~ 9.12	スウェーデン (ウプサラ)
佐々木進次郎 (胸部外科学)			牧本 一男 (耳鼻咽喉科学診療教授)
新入生学外合宿企画実行委員会委員		9. 2~ 9. 8	フランス (パリ)
7.18 教 授 勝 健一 (内科学II)			榎林 勇 (放射線医学教授)
〃 〃 北浦 泰 (内科学III)			宇都宮啓太 (〃 講師)
〃 診療助教授 豊田 昌夫 (一般・消化器外科学)		9. 2~ 9. 9	イギリス (ヨーク)
海外渡航			大槻 勝紀 (解剖学I教授)
8. 3~ 8. 8	アメリカ (シカゴ)	9. 3~ 9.10	ドイツ (ハンブルグ)
	白井 久也 (整形外科学内講師)		原 均 (一般・消化器外科学講師)
8. 4~ 8.13	アメリカ (ボストン)	9. 3~ 9.17	ロシア (クルガン)
	玉井 浩 (小児科学教授)		白井 久也 (整形外科学内講師)
8. 5~ 8.20	アメリカ (ボストン)	9. 8~ 9.14	ドイツ (ミュンヘン)
	余田 篤 (小児科学講師)		松村 人志 (神経精神医学講師)
8. 6~ 8.10	シンガポール (シンガポール大学)		横田 伸吾 (〃 学内講師)
	南 敏明 (麻酔科学助手)	9.15~ 9.19	中国 (北京)
8. 8~ 8.16	インド (チェンナイ)		大槻 勝紀 (解剖学I教授)
	阿部 宗昭 (整形外科学教授)	9.18~ 9.25	ロシア (ハバロフスク他)
8.16~ 8.26	アメリカ (カリフォルニア)	9.26~10. 1	アメリカ (コネチカット)
	和田 明 (物理学助教授)		山本 隆一 (病院医療情報部助教授)
	吉田 秀司 (〃 助手)	9.20~ 9.26	アメリカ (コロンビア大学)
8.19~ 8.27	アメリカ (シカゴ)		矢野 貴人 (医化学講師)
	宮崎 瑞夫 (薬理学教授)	9.24~10. 8	チェコ (プラハ)
	高井 真司 (〃 講師)		岡本 雅雄 (整形外科学助手)
8.22~ 8.30	オランダ (アムステルダム)		藤原 憲太 ()
	寺崎 文生 (内科学III学内講師)	9.29~10.10	フランス (パリ) 他
8.24~ 9. 4	ギリシャ (アセンス)		瀬本 喜啓 (整形外科学診療助教授)
	浅井 一視 (生物学講師)	10. 1~10. 8	イギリス (ロンドン)
8.25~ 9. 4	スペイン (バルセロナ)		阿部 宗昭 (整形外科学教授)
	清水 章 (病態検査学教授)	10. 1~10. 8	イタリア (シエナ)
8.27~ 9. 1	フランス (ヴェルサイユ)		竹中 洋 (耳鼻咽喉科学教授)
	米田 博 (神経精神医学教授)		今中 政支 (〃 学内講師)
8.27~ 9. 2	シンガポール	10. 1~10. 9	アメリカ (フィラデルフィア)
	渡邊 丈眞 (衛生学・公衆衛生学助教授)		高松 順太 (内科学I助教授)

10. 2～10. 5 フランス (リヨン)
 林 哲也 (内科学Ⅲ講師)
10. 8～10.12 ドイツ (イエナ)
 島田 眞久 (学長)
10. 9～11. 9 オーストリア (ストルツェルブ)
 藤原 憲太 (整形外科学助手)
- 10.14～10.20 ドイツ (ハノーバー)
 谷川 允彦 (一般・消化器外科学教授)
- 10.16～10.20 ドイツ (ハノーバー)
 奥田 準二 (一般・消化器外科学内講師)
- 10.18～10.22 アメリカ (オークランド)
 山本 隆一 (病院医療情報部助教授)
- 10.20～10.24 台湾 (台北)
 瀬本 喜啓 (整形外科学診療助教授)
- 10.21～10.27 アメリカ (ダラス)
 菅澤 淳 (眼科学診療助教授)
 植木 麻理 (助手)
- 10.29～11. 2 シンガポール
 勝岡 洋治 (泌尿器科学教授)
 瀬川 直樹 (助手)

海外留学

9.25～

- H13.9.30 アメリカ (バンダービルト大学)
 小森 剛 (放射線医学助手)

訃 報

本学名誉教授の木原隆先生 (81才) が、去る11月4日 (土) 本学附属病院にて肺炎のため逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

寄附金

■本学附属病院新総合棟建築事業に係る寄附金の応募状況について

項目 区分	寄附金	
	件数	総額(円)
本法人役員・評議員	4	2,800,000
教職員	14	1,275,000
仁泉会会員	97	22,210,000
白友会会員	51	2,523,000
学生保護者	2	600,000
法人等(個人、一般含む)その他	58	54,389,481
計	226	83,797,481

平成12年9月30日現在

〈寄附金申込者名〉

平成12年7月1日から9月30日までの間に寄附金申込者は、9件、金額4,415,000円です。
ここに寄附金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

○教職員 1件、金額10,000円

大槻 哲彦

○仁泉会会員 1件、金額100,000円

大住 弥三一

○白友会会員 2件、金額55,000円

平井 三代子 小野 武子

○学生保護者 1件、金額500,000円

宇野 昭二

○法人等(個人、一般含む)その他 4件、金額3,750,000円

寄附者

代表者

有限会社すばる印刷

代表取締役

野村 昌男

協栄ビル管理株式会社

代表取締役

丸岡 隆男

株式会社ヤマオ・メディサイエンス

代表取締役

横山 春雄

ジーイー横河メディカルシステム株式会社

代表取締役社長

伊藤 伸彦

寄附金募集期間 平成13年12月末日まで

※税法上の優遇措置が受けられます。

募集対象 本法人役員・評議員、教職員、仁泉会会員、白友会会員、学生保護者、一般個人及び法人
寄附金額 個人1口10万円、法人1口50万円 但し、1口未満の金額でもお受けいたします。
問い合わせ先 大阪医科大学事業推進室 TEL0726-84-6344

寄附金募集についてのお願い

本学附属病院新総合棟建築事業に係る寄附金の募集につきましては、既に本法人の役員・評議員、教職員、仁泉会会員、白友会会員、学生保護者、関係企業等にご支援をお願いし、御協力をいただいておりますが、残念ながら目標額に達していません。

つきましては、皆様方におかれましても諸費多端の折、誠に恐縮に存じますが、何卒ご事情ご賢察くださいますと、寄附のご支援を賜わりたく全学あげてお願い申し上げる次第でございます。

故海軍中佐 三上治男氏を偲んで

高槻市在住 井上 寿一

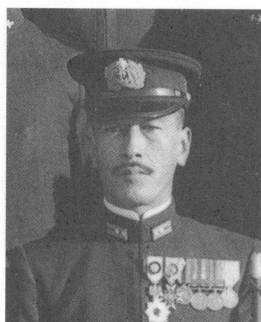
この度 三上治男氏の海軍兵学校教官時代の生徒一同が浄財を寄せ合い、教官のご遺志を汲んで貴学医学研究資金として些少ですが寄付をさせて頂きました。

ここに教官を偲び、その生涯についてご紹介申し上げます。

尚、学校法人大阪医科大学理事 小倉裕氏は私の海兵時代の期友で、今回の寄付に立合ってもらいました。

記

三上治男氏の略歴



明治37年 6月	福井市 生
大正12年 3月	県立福井中学卒
同年 4月	海軍機関学校入学 (同校校歌作詞者が貴学学歌作詞者と同じ)
大正15年 3月	同校卒業後多数の海軍艦艇で勤務
昭和18年11月	海軍中佐、海軍兵学校教官
昭和19年 4月	勲三等瑞宝賞 受賞
戦後	淀川製鋼所 大阪減速機製作所勤務
平成12年 3月30日	逝去 享年96歳
	ご遺族 妻 三上登代子様 (茨木市在住)

三上治男氏は医学進展に寄与する献体に賛同し貴学のさつき会に入会、逝去後貴学に献体。人格高潔にして博識、後輩の指導、戦死者の慰霊などに力を傾注された。

呆け予防のため90歳を越えても暇を見ては数学の難問に挑んでおられたという。

その人柄及び献体についての確固たる意志は次の遺言、辞世によって知ることができるであろう。

◆ 献体について遺言抜萃

- ・墓地を買って墓石を建てる気持ちは全然なかった。墓地を作ればそれだけ日本の緑地が減る。
- ・遺骨は全部慰霊堂に納骨してくれる。我が家に遺骨は不要。遺体が医学の研究に役立てば、これこそ本望だ。

◆ 辞世

- ・我死なば墓地もなければ墓もなし、せめて遺体を医学のために。
- ・墓立つもやがて無縁となるものを、狭き国土に何がためにする。

(付記) なお、本件ご寄付につきましては、平成12年 8月 2日、金225,000円を受領致しました。
(財務課長)

日中友好病院長本学を表敬訪問 助成金・科研費関係

■日中友好病院長本学を表敬訪問

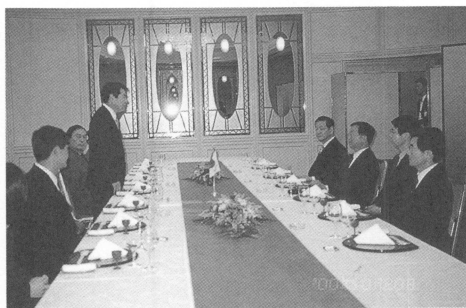
10月19日（木）午後、来日中の日中友好病院何恵宇病院長と尹勇鉄外事処長が、本学を表敬訪問され、田中理事長、島田学長との会談、施設見学の後、学長・中山国際医学医療交流センター運営委員との懇談が行われました。

午後5時45分からたかつき京都ホテルで行われたレセプションでは、島田学長、植木病院長をはじめ、中山国際医学医療交流センター運営委員が出席し、ユーモアも交えながら終始和やかな雰囲気での親睦を深めました。

（なお、日中友好病院からは、かねてから本学脳神経外科学教室で研究者の受入が行われるなど友好関係にありました。近時の日中友好病院との友好関係については、このあとの大槻教授の海外出張記「中国を訪問して」[P.18]をご覧ください。）



▲学長・センター委員と歓談する何院長



▲たかつき京都ホテルでのレセプション

■平成12年度 第15回基礎医学医療研究助成金 [(財)金原一郎記念医学医療振興財団]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
動物モデルを用いたエイズによる痛みの発現機構の解明 Studies on mechanism of pain related to HIV/AIDS with animal model	麻酔科学 助手・南 敏明	40万円

■平成12年度 科学研究費補助金

〈転任研究者分〉

(単位：千円)

研究種目	審査区分	研究課題	研究代表者	12年度予定額
基礎研究(C) (2)	一般	血管平滑筋増殖に対する遺伝子組み換えウイルススペクターによる遺伝子治療の研究	脳神経外科学・講師 宮武 伸一	1,951

〈追加採択分〉

研究種目	審査区分	研究課題	研究代表者	12年度予定額
基礎研究(C) (2)	一般	蝸牛血流調節におけるNOの役割	耳鼻咽喉科学・診療教授 牧本 一男	2,200

以上2件

平成13年度入学試験要項（概要）

——平成13年度入学試験要項（概要）——

平成13年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校、それぞれの入学試験要項が決定いたしましたのでその概要をお知らせします。

I) 医学部・医学科

1) 入学願書受付期間

平成13年1月5日（金）～1月31日（水）必着のこと

2) 学科試験日および試験科目

月 日 (曜)	時 間	教 科	科 目 (出 題 範 囲)
2月9日 (金)	9:30～11:10 (100分)	数 学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 数Aの科目中、平面幾何・計算とコンピュータを除く 数Bの科目中、算法とコンピュータを除く 数Cの科目中、数値計算・統計処理を除く
	12:30～14:30 (120分)	理 科	「物B・物Ⅱ」・「化B・化Ⅱ」・「生B・生Ⅱ」 の3区分中2区分選択
	15:30～16:40 (70分)	外国語	英Ⅱ・リーディング・ライティング

3) 試験場

関西大学・千里山キャンパス第3学舎（社会学部）（大阪府吹田市千里山）

4) 学科試験合格者発表

2月19日（月）午後4時、本学構内に掲示するとともに、出願者全員に対して、電子郵便で「学科試験合格者受験番号一覧表」を送付する。

5) 面接試験・小論文及び健康診断

2月23日（金）午前8時20分（学科試験合格者について実施する）

6) 合格者発表

2月24日（土）午後1時、合格者を本学構内に掲示し、本人宛（保護者現住所）にも合格通知書並びに入学に関する手続書類を送付する。

7) 入学検定料 50,000円

8) 納入金

項 目	初 年 度 納 入 金			2 年 次 以 降 納 入 金 (年 額)
	第 1 期 (入学手続時)	第 2 期 (9月15日)	第 3 期 (1月15日)	
入 学 金	1,000,000円			
授 業 料	610,000円	600,000円	600,000円	1,810,000円
実 習 料	120,000円	120,000円	100,000円	340,000円
施 設 拡 充 費	410,000円	400,000円	400,000円	1,210,000円
教 育 充 実 費	5,000,000円			900,000円
合 計	7,140,000円	1,120,000円	1,100,000円	4,260,000円

平成13年度入学試験要項（概要）

★入学手続完了者で3月21日（水）正午までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、
 入学金以外の納入金を返還する。

（註）

- 1) 入学手続時に、PA会（保護者会）会費（年額100,000円）のうち第1期分50,000円及び学友会
 入会金5,000円、学友会会費（年会費）10,000円をそれぞれ委託徴収する。

Ⅱ) 大学院・医学研究科

- 1) 入学願書受付期間
 平成13年1月4日（木）～1月18日（木）（必着）
- 2) 入学試験日時、試験科目及び試験場

月日（曜）	時 間	試 験 科 目	試 験 場
2月1日（木）	9：30～11：30	外 国 語	本 学
	12：30～13：30	健 康 診 断	
	13：30～16：00	面 接	
2月2日（金）	14：00～16：30	専 攻 科 目	

- 3) 合格発表
 平成13年3月8日（木）午前9時本学内に掲示すると共に本人宛にも通知する。
- 4) 入学検定料 30,000円
- 5) 納付金

項 目	初 年 度 納 付 金			2 年 次 以 降 納付金（年額）
	第1期（入学手続時）	第2期	第3期	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	200,000円	200,000円	200,000円	600,000円
実 習 料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
合 計	500,000円	270,000円	260,000円	800,000円

平成13年度入学試験要項（概要）

Ⅲ）看護専門学校

推薦入学試験（指定高校制）

学 科	第一看護学科（三年課程）	第二看護学科（二年課程）
募集人員	約 15 名	約 10 名
受験資格	平成13年3月高等学校卒業見込みの者	平成13年3月高等学校衛生看護科 卒業見込みの者
推薦基準	推薦者は1学校1名 1) 成績がA段階またはB段階であること。 2) 心身共健康で将来看護婦となるに適している者であること。 3) 専願で合格後は必ず入学すること。 4) 学校長の推薦があること。 5) 原則として卒業後本学附属病院に就職すること。	
試験日時	平成12年11月16日（木）9：00～16：00	
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く）・小論文試験 面接試験 適性試験 健康診断	
試験場	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	
合格発表	平成12年11月24日（金） 可否については学校に通知するとともに本人に通知する。	
受験料	20,000円	
受付期間	平成12年11月1日（水）～11月7日（火）消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 （土曜、日曜、祝日を除く）	
学 費	入 学 金 150,000円 授 業 料 350,000円（年間） 実験実習料 50,000円（年間）	

平成13年度入学試験要項（概要）

一般入学試験

学 科	第一看護学科（三年課程）		第二看護学科（二年課程 全日制）	
募集人員	約 25 名		約 30 名	
受験資格	1) 高等学校を卒業した者、および卒業見込みの者 2) 通常の課程による13年の学校教育を修了した者 通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む 3) 外国において学校教育を修了した者またはこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの 4) 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者 5) 文部大臣の指定した者 6) 文部大臣の行なう大学入試資格検定に合格した者		1) 高等学校衛生看護科卒業および平成13年3月卒業見込みの者 2) 高等学校または中等教育学校を卒業し、准看護婦の資格を有する者 3) 准看護婦の免許を取得してから3年以上看護業務に従事している者	
	1次試験	2次試験	1次試験	2次試験
試験日時	平成13年1月28日（日） 9：00～15：30	平成13年1月30日（火） 8：00～	平成13年1月22日（月） 9：00～12：30	平成12年1月23日（火） 8：30～
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く） 数学Ⅰ（二次関数・図形と数量） 数学A（数と式） 生物ⅠB・化学ⅠBのうちいずれか1科目選択 英語Ⅱ 適性検査	面接試験 健康診断	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く） 数学Ⅰ（二次関数・図形と数量） 数学A（数と式） 英語Ⅰ 専門科目（准看護婦課程において履修した科目） 適性検査	面接試験 健康診断
試験場	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号
合格発表	平成12年1月29日（月） 12：00	平成12年2月3日（土） 12：00 合否については本人宛に郵送で通知する	平成12年1月23日（火） 8：00	平成13年1月27日（土） 12：00 合否については本人宛に郵送で通知する
	いずれも大阪医科大学正門の掲示板に発表する			
受験料	20,000円			
受付期間	平成13年1月5日（金）～1月19日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 (土曜、日曜、祝日を除く)		平成12年12月25日（月）～平成13年1月12日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 (土曜、日曜、祝日を除く)	
学 費	入 学 金 150,000円 授 業 料 350,000円（年間） 実験実習料 50,000円（年間）			

教室紹介

医化学教室

昭和3年、初代武田義道教授によって開講された本教室も5代目鏡山が赴任してすでに20年になる。研究の主テーマは〈酵素の構造と機能相関〉、〈神経細胞表面認識分子の構造と機能相関〉。酵素が無ければ生命現象は無い、酵素の機能異常（蛋白質構造の異常による）があれば健康な生命の営みはできないということで、今の時流に乗っているとは言えないが、その機能発現の機構を明らかにすることにこだわっている。とくに、酵素が特定の基質と特定の反応しか行なわない機構、10桁以上反応速度を増幅する機構は、酵素が生命の維持に必須である所以でありその解明につとめている。

21世紀の生命科学はゲノムプロジェクトの成果を背景に展開することは間違いない。その重要課題の一つに構造生物学がある。分子、とくに蛋白質の立体構造を決定し、それに基づ

いて機能を説明し、生命現象の理解に向かおうとするものである。細胞の中には多種多様の分子がひしめいていて終始ぶつかりあっているはずである。しかし、そのほとんどは反応につながらない。どんな状態の時にどんな反応が生じて生命現象の発現につながるのかということの解析も求められるであろう。この領域はわが国のウイークポイントの一つといわれている。酵素学を究めることを通してそれに備えておこうというのが本教室の方針である。臨床医学に直接つながるものとはいえないかもしれないが、このようなことが理解できない限り、受容体からの情報伝達の機構もわからなければ、ビタミンや微量金属元素の本当の役割は理解できないと考える。

酵素としては、アミノ酸代謝に多様な働きをしているビタミンB₆酵素を研究の対象



教室紹介

にしている。現教室がスタートした昭和55年当時は、それまで生化学の主流をなしていた酵素学が技術的に限界に達し、かわって遺伝子組換え技術が一般化し、分子生物学が急速に発展しようとするころであった。ある酵素（極めて微量なのが普通）の遺伝子をクローニングし、大腸菌に導入して大量に発現させ、X線結晶解析による立体構造の決定のための試料を作る。立体構造をもとに、望みの場所のアミノ酸残基の置き換え（人工的突然変異作製）を行って、機能がどのように変化するかを調べるという方法は今では普通に行なわれるようになったが、アスパラギン酸トランスアミナーゼ（AST, GOT）の研究にこの手段を導入したのは世界的にも酵素学の領域では極めて早い時期で、流行の先端を切ったと自負している。アミノ酸代謝は何故ビタミンB₁でなくB₆なのか、GOTのどんな構造がああ素晴らしい触媒効率を産み出しているのかなど、少しずつ明らかにしながら、酵素学では国際的に先頭集団の中にいると自賛している。最近、進化学（あるいは定向進化）という手段で、蛋白質の機能改変や新たな機能の獲得に成功して注目されている。遺伝子操作法への新しい手段の提供にもつながり、また、遺伝子の変異に起因する分子病の理解をたすけ、さらに将来は望みの機能を持った蛋白質の設計にもつながるものと期待している。

生化学教育充実のため、第二講座新設にか
わって設けられた生化学領域（定員3名）

の担当を委託されており、神経科学領域の研究をおこなっている。神経回路網形成に関する蛋白分子、嗅覚系に働く蛋白分子について、理化学研究所との共同研究が進んでいる。

教授1、助教授1、講師1、助手6、大学院生2、他学からの実習生2、事務員1の世帯である。毎年数名の学生研究員が出入りしているが、その中でJ.Biol.Chem.、Biochemistry、J.Mol.Biol.などの一流国際誌に名を連ねた者も5名を数える。倉光成紀（前助教授）、林秀行（現助教授）が日本ビタミン学会奨励賞を各々平成2、10年に、鏡山が日本ビタミン学会賞を平成11年に受賞した。また、矢野貴人（現講師）の進化学に関する論文の一つは平成12年度日本生化学会JB論文賞（日本生化学会の英文誌J.Biochem.の平成11年全掲載論文二百数十篇から8篇選出）を受賞、J.Biol.Chem.掲載のものはCurrent Opinion in Structural Biology誌でof outstanding interest（読んでおくべき論文）の評価を受けた。

学生の成績評価は厳しく適正にをモットーにしてきたので、試験のあとの放課後になると医化学の常識的知識の乏しい学生が教授室と図書館の間を何度も往復する光景は十年来変わっていない。変わったことは、時代の流れであろうか、教室員がそろって酒を飲む機会がめっきり減ったことであろう。

（文責 鏡山博行）

欧州の新エネルギーと環境への取り組み

— 早秋のヨーロッパ —

常任監事 國澤隆雄

2000年9月3日から同月10日まで、『欧州の新エネルギーと環境への取り組み』海外視察・研修会に在阪3大学の関係者とドイツ・オーストリア・スイスの3ヵ国をまわってきた。

今話題の地球温暖化、酸性雨、大気汚染、環境ホルモンなど地球規模の環境問題への対応が中心テーマであったが、世界経済の牽引車でもあるドイツの急激な変貌（東西ドイツ併合）、環境に対する意識の高いオーストリア・スイス等最もナウな情勢を目のあたりに勉強でき、タイミングもよかった。

ベルリンの壁（1961～1989）の崩壊（1989.11.9）によって、ブランデンブルグ門は再び開放され、東西ドイツは併合、単一国家となった。東西ベルリンの歓喜の余韻にひたるかのようにドイツ連邦議会議事堂“ライヒスタグ”を取囲んで官庁、民間企業（ベンツ・ソニー等）の拡張工事が槌音も高らかに進行している。



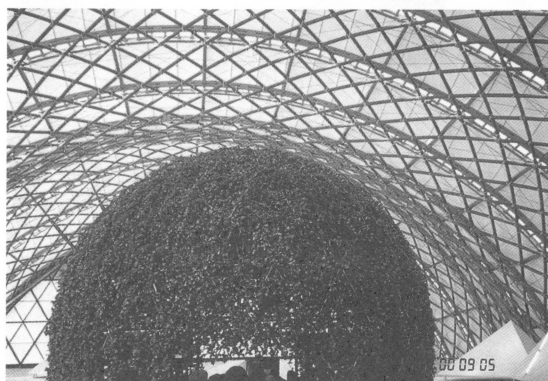
ライヒスタグの内部。逆円錐の部分が建物の煙突の役割を果たし、自然換気がおこなえる。また自然光が議場に差し込むようになっている。

ライヒスタグは外壁を残しながら改修した歴史的建造物で総工費約400億円、コージェネレーションシステムなどの工夫でCO₂排出量を94%削減した建築で、太陽電池、自然換気、自然照明をふんだんに取り入れており、コージェネ（アブラナ・ヒマワリ・ナツメヤシを使用）余剰熱を地下300mの帯水層に蓄熱、建物の暖房用の温水に利用されているほか、周囲の4つの官庁に供給している。植物油コージェネが導入された背景には、環境保護を党是とする与党「緑の党」の意向も働いているのだろうか。

ベルリンからICE942の新幹線（250Km/h・振動は少ない）で1時間36分。車窓からのグリーンの平

原と高樹林の広がりにはまさに東山魁夷の絵の中を彷徨する感じである。ハノーバーでは折りしも国際博覧会（EXPO2000）が、「人間—自然—技術」を総合テーマとして開催中であった。わが国のパビリオンは、再生紙で作られたリサイクル志向型のものであった。「地球温暖化防止—CO₂排出削減—（守るべき美しい地球）」をテーマに様々な環境異変を抱える現在の地球の姿を映像で訴え、現在排出されているCO₂を固定化する技術を紹介していた。この建物は、EXPO終了後はベルリンの小中学校の教科書として再生される。このパビリオンの館内の入口にある「石庭」をモチーフとした大空間が印象に残っている。筆者は龍安寺の石庭を思い浮べた。この石庭の裏側の水かめ蓋に漢字四文字を形どったデザイン「吾唯足知」がある。自ら充ち足りる事を知れと言う寓意であろう。環境問題を考えるときに平凡にして深遠なるこの四文字に啓発されるのである。

チューリッヒ連邦工科大学（Eidgenössische Technische Hochschule）は、美しいドーム型の屋根をもつ建物でアインシュタインが学び教えた名門大学である。ヘンガーベルクに導入されたコージェネレーションシステムを見学した。この大学ではコージェネの導入と地域暖房をうまくミックスすることによって環境性とエネルギー削減に成功していた。自前のナタネ等によるコージェネの電力は学舎で使用し、排熱はボイラー温水とともに高温の温水で学舎



ハノーバー万博日本館。日本館は再生紙でできたパビリオンが話題に。万博終了後こどもたちの教科書として再利用される。

と周辺住戸500戸へ供給している。

進歩著しいドイツ、オーストリア、スイスの環境対策をみて地球に優しい明るい未来をみた。本学の将来計画を企画する際参考となる出張でもあった。

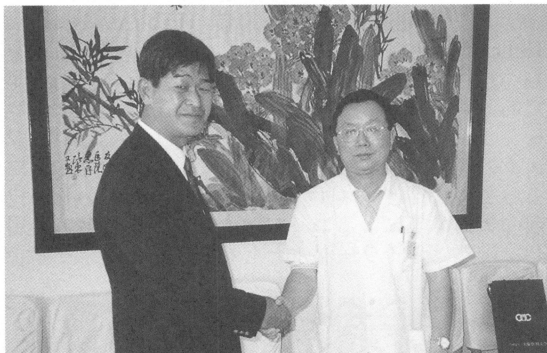
（新エネルギーと環境に興味のある方は國澤までご連絡下さい。）

中国を訪問して

解剖学第一講座 教授 大槻勝紀

本年9月15日から19日にかけて北京を訪問してきました。この時期の北京は初秋で、湿度は低く、抜けるような青空の日が続きました。日本や中国各地から観光客が北京に押し寄せ、故宮博物館や万里の長城などは人で溢れていました。当初の北京の訪問目的は、本学出身（学30期卒）の酒谷薫先生（日中友好病院教授・JICA専門家）から日中友好病院での講演依頼で、気楽にお受けした次第でした。以前から酒谷先生とは個人的なおつき合いもあり、JICA専門家として中国で弧軍奮闘している彼を、なんとか大阪医大で支援できないものかと思っていました。最近、中山国際医学医療交流センター（本センター）の委員になったこともあり、中山先生、河野センター長ならびに本センター各委員に本学と日中友好病院との交流の件をお話したところ、ご賛同を得て、本センター

緊張いたしました。病院側は何院長、郭党書記、2名の外事処員が、こちらは酒谷先生と私の2名が出席し、通訳を介しながらの会談となりました。その晩には病院側の招待宴があり、中華料理をご馳走になるはずでした。不覚にも中国式の乾杯の作法（事あるごとに、しかも不意に全員で紹興酒を飲み干す）を知らずに宴に出ましたため、料理半ばにして意識が薄れ、酒谷先生に担がれるごとくホテルに戻りました。さらに翌日には返礼としての主催で招待宴（これも中国の慣習とのこと）を張り、病院関係者に日本料理を持ってなしました。何院長はすぶるご機嫌で、外事処職員から「中国では招待者が泥酔すれば、主催者に心を開いた証です。」との説明がありました。私のような酒に弱い人間には過酷な祝宴でした。大使館の会談では杉本公使からJICA専門家としての酒谷先生のご活躍やご苦勞をお聞きし、彼に対する大使館の評価が高いことが伺われました。これまでの会談の内容は本センターに報告書を提出する予定ですが、その一部を簡単に紹介いたします。(1) JICAのプロジェクト（ODA）に申請し、日中友好病院と本学とをISDN（3回線）で結び、遠隔治療を行うこと。(2) 中国から研修生（1名）を遺伝子研究の目的で脳神経外科学教室（黒岩教授）に受け入れることなどです。



大槻と何 恵宇病院長（日中友好病院）：病院内応接室



返礼としての大槻教授招待宴（北京市内の日本料理店）
左1列目：李党書記、何病院長、大槻、王さん（外事処・通訳）

酒谷JICA専門家、魏副主任（中西結合研究室）、石副院長（外事処・通訳）、科副主任（脳神経外科）

の事業の一つに加えていただきました。このような経緯もあり講演（アポトーシスとその遺伝子研究）とともに、大阪医大と日中友好病院との国際交流の架け橋的な役目も担うことになりました。このことを酒谷先生にご連絡したところ、急遽、何院長（日中友好病院）、杉本公使（中国大使館）との会談、JICA北京事務局との昼食会などが設定され、観光気分も吹っ飛んでしまいました。日中友好病院は総ベッド数1,300床の大規模な総合病院で、看護婦や医療技師養成のための付属衛生学校と、医学研究を目的にした臨床医学研究所が併設されています。この病院は日中国交正常化（1972年）を記念として日本政府の無償資金協力により建設されましたが、1984年に開院して以来、日中友好のシンボルとしての役割を果たしています。中国に着いた当日は何院長との会談がありました。会議室の白いテーブルの上には日本と中国の国旗が飾られ、重々しい雰囲気の中で、非常に

本学の理念は「グローバル社会に貢献できる良医の育成」であります。今回の訪問が契機となり、本センターで行う国際交流の事業が本学の独自性にかなうものであれば、私にとって望外の喜びです。

これは阪大医学部環境医学実習の一環で、大阪医大で言うSGLです。参加を決めた学生と個人的に知り合いで、偶然誘われ参加できました。大医3年片岡都さん、宮地里江子さんも共に参加しました。引率は、本実習チューターで開業医の南吉一先生、参加者は、阪医4年生6名、市大医3年生1名、大医3年生3名、現地看護学生1名でした。

研修先はデンバー空港から車で2時間半、西部の小都市プエブロにあるSANGRE DE CRIS TO HOSPICEで7月10日から21日まででした。スケジュールはホスピス所長と現地世話人モートン加代子さんにより、きっちり組まれていました。

期間中レンタカーを貸り、サウスコロラド大学生寮を安宿として利用しました。

当研修の主目的は、アメリカのホスピスを実体験すること、日本で準備した患者、家族、職員への質問票でインタビューすることにあると思われます。今回の質問票のテーマは、患者、家族のQOLでした。

スケジュールの中で最も大切に、印象深かったのはPatients Visitsでした。アメリカのホスピスの9割が在宅で1割が建物の中にある、日本人が思い浮かべるであろうホスピスです。SANGRE DO CRISTO HOSPICEは平屋建てで、事務室と会議室と職員の部屋から成ります。そこから末期患者宅に、1人ずつ職員が出向きます。職員1人が1日に付き2～3名の患者を訪問します。それに、学生が1～3名ずつ、何度か同行させてもらいました。

職員は道中、患者の病気、家庭環境、人柄について熱心に教えてくれました。訪問先では家族がボランティアか家政夫が患者を見ていました。リビングルームに腰かけている患者もいましたが、大半はベッドに横たわっていました。患者や家族は私たちの訪問を歓迎してくれました。自己紹介と雑談の後、質問票の質問をしました。職員は、英一英通訳で助けてくれました。患者に悲壮さは見受けられず、明るく、「あなたは誰かに必要とされていますか。」といった、シビアな質問に、中には涙ぐみながら、一生懸命答えてくれました。皆協力的



でした。日本では、他人の学生が、末期患者宅を訪問し患者に質問することなど、許されるはずもありません。私たちは共通して、アメリカ人のオープンさに感銘を受けました。

患者訪問の他を挙げると、週に1回、朝食を兼ねて行われる、スタッフミーティングに同席しました。約2時間かけて、担当のスタッフが患者の現状を話し、患者の情報を全員で共有しようというものです。又、所長、事務長、ナース (RN)、カウンセラー、チャプレン、ボランティア等各専門家がホスピスにおける各々の役割と活動について発表してくれました。Dr.Cipperlyによるpain controlについての講義、RNによるエイズの講義、学生によるプレゼンテーション、私たち3人は介護保険をテーマに選びました。Pikes Peakにあるいわゆるホスピスを見学し、各専門家の話を聞きました。モートンさんの勤務するPark View Hospital内を見学させてもらいました。手術着に着替え、手術室も見せてもらいました。市内の教会と葬儀場も見学しました。

プエブロの隣町、Canon Cityにある、本ホスピスの支所へ2度出向き、そこでもスタッフミーティングへの参加とPatients visitsをしました。

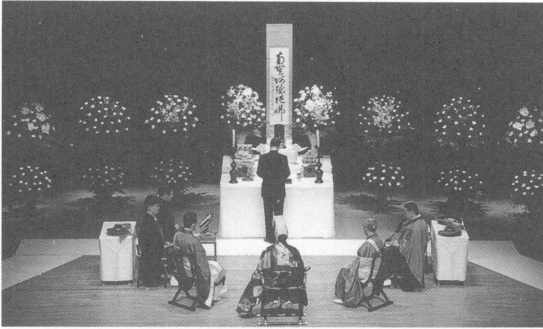
ところで、ホスピスに医師の姿はありませんでした。緩和医療はRNが担当していました。医師とのコンタクトは全て電話によります。医療行為は医師による監修が必要とされています。

ホスピススタッフとしては、RN、PT、カウンセラー、チャプレン、ソーシャルワーカー、ボランティアがいます。各々専門分野を生かして、末期患者が持つ4つの痛み (physical, mental, social, spiritual pain) のcareを分担します。

最後に所長は、ここで学べる人は少ないけれど、私たちが日本へ帰って、学んだ知識を広めてくれたら、大きな力になると言っていました。スタッフは全員私たちに熱心に親切にしてくれました。この感動を大切に、これからもホスピスについて勉強してゆけたらと思います。

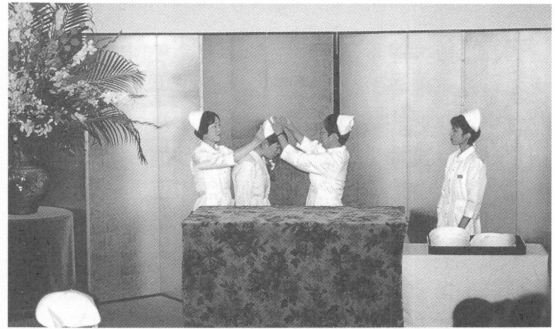


平成12年度解剖慰霊祭



平成12年度の解剖慰霊祭が、10月21日（土）午後2時から高槻現代劇場において、ご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）及び来賓各位約400名をお迎えし、本学役員、教職員並びに学生、看護専門学校生の参列のもと、おごそかに執り行われました。

看護専門学校戴帽式



看護専門学校第一看護学科学学生45名に対する戴帽式が10月6日（金）午後1時から本学臨床第1講堂において、来賓及び保護者の方々をお迎えし挙行されました。

大学祭2000「Jam」



▲盛況の野外特設ステージ



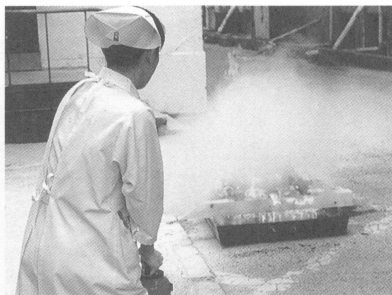
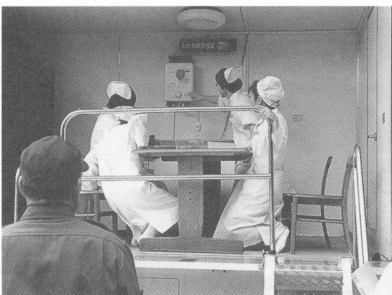
▲フリーマーケット

今年は「Jam」をテーマに10月14日（土）さわらびキャンパスにおいて開催されました。

同キャンパスに設けられた野外特設ステージでは、午前10時からK-ON SUPER LIVE com1が行われたのを皮切りに、NICE GUYコンテストなど多彩なイベントが催されました。

また、キャンパス内でも各クラブが、イベントやクラブ出展を行い、日頃は閑静なキャンパスも、この日ばかりは賑わいを見せていました。

消火実地訓練



10月17日（火）午後1時30分から、消火実地訓練が中央資料館前にて行われました。当日は、消火器の使用訓練と、起震車による地震体験乗車も行われました。参加者は初期消火の重要性を身をもって学ぶとともに、地震など各種災害対策への認識を新たにしました。

名誉・功勞教授懇談会

名誉・功勞教授懇談会が、10月20日（金）午前11時30分から、いばらき京都ホテルで開催されました。今年は武内敦郎名誉教授が幹事を務め、12名の名譽教授、5名の功勞教授が出席されました。



第52回西医体

準硬式野球部、空手道部が優勝

第52回西日本医科学学生総合体育大会は島根医科大学を総合主幹校として西日本の44大学が参加して中国・四国地方を会場に7月23日～8月9日の日程で20種目の競技が行われました。

本学の主な成績は次の通りです。

総合成績 第6位（総合得点305.5点）
 上位成績 優勝 準硬式野球部
 空手道部
 第3位 弓道部（女子）
 スキー部（女子）

医学教育の見直しがかねがね、全国的にカリキュラムの再編成が進む中、本学でもその例に漏れず、現在の4年生からカリキュラムが変わりました。どのクラブにおいても、我々学生がその活動に費やすことのできる時間は、以前に比べ減少しているのが現実です。

しかし、そうした状況にもかかわらず、今回の西医体では、去年を上回る総合6位という成績を残すことが出来ました。これはひとえに、学生一人一人の努力の賜物だと思っております。

ひとまず、「文武両道」という本学の伝統は守れたのではないのでしょうか。

現在、5年生以下の学生は、早くも来年の西医体に向けて、より一層の向上を図るべく練習に励んでおります。来年は、さらなる好成績を残せるものと確信しておりますので、どうか先輩諸氏、教職員の皆様方には温かい御支援御指導を宜しくお願い致します。

また、今年度をもってクラブ活動を引退される6年生の皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございます。我々の最も身近な先輩として、今後ともどうか宜しくお願い致します。

平成12年度 体育会委員長
 岡田 俊彦

準硬式野球部

我々野球部は、第52回西医体準硬式野球部門におきまして24年ぶりに優勝、全医体準優勝、また清瀬杯全日本大学選抜大会でもベスト8という結果を収めることができました。このような結果も、部員の日々の努力はもちろんのこと、OBの先生方の日頃からのご支援があったからこそ成し得たものでした。



今年のこの結果に甘んじることなく、さらなる向上を目指し、より一層練習に励んでおりますので、今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いたします。

空手道部

悲願の西医体団体戦二連覇を達成しました。空手道部が始まって以来、地元以外での優勝は初めてです。団体戦以外については流石に去年ほどではないのですがそれなりに好成績であったと思います。来年も、というプレッシャーもありますが、それに負けず部員一同今後も精進していきます。押忍。



会 議・行事予定

■主要会議とその主な議題

8月1日から10月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(8月1日)

－審議事項－

1. 顧問の委嘱について
2. 日本鉄道建設公団所有地の購入について
3. 学部学生納付金について

－報告事項－

1. 経営専門委員会報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. その他(学長・病院長報告)

(9月12日)

－審議事項－

1. 大阪医科大学臨床教育教授及び臨床教育助教授規程の制定について
2. 大阪医科大学臨床教育協力機関協定規程の制定について
3. 借入金の借り換えについて
4. 中山国際医学医療交流センター運営費について
5. 教員組織検討委員会提案について

－報告事項－

1. その他(学長・病院長報告)

(9月26日)

－審議事項－

1. 新阿武山病院の無償譲渡について
2. 大阪医科大学臨床教育教授及び臨床教育助教授規程の制定について
3. 大阪医科大学臨床教育協力機関協定規程の制定について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について
5. さわらぎ教育職員の定員について

－報告事項－

1. 経営専門委員会報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. その他(学長・病院長報告)

(10月10日)

－審議事項－

1. 理事の選任について

2. 日本鉄道建設公団所有地の購入について
3. 新阿武山病院の無償譲渡について

－報告事項－

1. 経営専門委員会報告
2. その他(病院長報告)

[教授会]

(9月6日)

1. 人事に関する件(客員教授の任用他)
2. 第6学年仮進級者の前期試験不合格科目の可否判定に関する件
3. 学則の一部変更に関する件
4. 各種委員会委員の変更等に関する件

(9月20日)

1. 人事に関する件(客員教授の任用他)
2. 第3・4学年前期進級可否判定に関する件
3. その他
 - 1) 治験審査委員会委員の委嘱について
 - 2) 外科系OSCE委員会の設置並びに同委員会委員の委嘱について
 - 3) 第6学年学生の休学願出について
 - 4) 臨床医から見た良医育成体制の在り方委員会について

(10月4日)

1. 人事に関する件(客員教授の任用他)
2. 第1学年学生の休学願出に関する件
3. 健康管理医の変更に関する件
4. 「良医育成体制の在り方;臨床の視点より」委員会委員の委嘱に関する件
5. その他

(10月18日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 実験動物センター運営委員会委員の変更に関する件
3. その他
 - 1) 治験審査委員会委員長の委嘱について
 - 2) 平成12年度日本育英会奨学生(大学第1種)の追加推薦について

[大学院医学研究科委員会]

(9月6日)

1. 研究生の願出に関する件
2. 学外研修期間変更に関する件

(10月4日)

1. 平成13年度大学院学生募集に関する件

(10月18日)

1. 学位論文受理に関する件

2. その他

1) 平成12年度(財)大遊協国際交流・援助・
研究協会奨学生の推薦について

(第一看護学科：1月19日まで)

9日(火)

第1・2・3・4学年授業再開

第5学年臨床実習開始

10日(水)

教授会・大学院医学研究科委員会

12日(金)

学位論文受付締切

16日(火)

理事会

22日(月)

看護専門学校第二看護学科

入学試験(23日まで)

24日(水)

教授会・大学院医学研究科委員会

28日(日)

看護専門学校第一看護学科

入学試験(30日まで)

■主な行事日程表

11月1日から平成13年1月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

11月8日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会

14日(火) 理事会

15日(水) 医学会秋季学術講演会

16日(木) 看護専門学校推薦入学試験

(第一看護学科・第二看護学科)

21日(火) 関連病院長会議

22日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会

28日(火) 理事会

29日(水) 第5学年臨床実習に関する

オリエンテーション

12月2日(土) 実験動物慰霊祭

6日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会

11日(月) 学位論文提出のための語学試験

第6学年後期試験Ⅱ(15日まで)

12日(火) 理事会

14日(木) 第5学年プレテスト(22日まで)

20日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会

21日(木) 看護専門学校冬期休業

(1月7日まで)

23日(土) 医学部学生冬期休業

25日(月) 看護専門学校入学願書受付開始

(第二看護学科：1月12日まで)

26日(火) 理事研究会

1月4日(木) 年賀交歓会

大学院医学研究科入学願書

受付開始(18日まで)

5日(金) 医学部及び看護専門学校

入学願書受付開始

(医学部：1月31日まで)

附属病院関係

■平成13年度臨床研修医募集要項

平成13年度本学附属病院の臨床研修医募集要項が下記のとおり決定いたしました。

募集要項

1. 募集人員

全科で100名以内とする

2. 研修科目

第一内科，第二内科
第三内科，精神神経科
一般・消化器外科，胸部外科
脳神経外科，整形外科
小児科，産婦人科
眼科，耳鼻咽喉科
皮膚科，泌尿器科
放射線科，麻酔科
形成外科，リハビリテーション科
歯科口腔外科，中央検査部
病態検査学

3. 応募資格

原則として当年施行の医師・歯科医師国家試験合格見込の者および医師免許証を有する者

4. 出願期間

平成12年12月1日（金）から
平成13年1月31日（水）まで

5. 提出書類

(1) 臨床研修医願書

(2) 履歴書（JIS日本工業規格使用、上半身の写真を貼付のこと）

(3) 住民登録票

(4) 卒業（見込）証明書および推薦書

(5) 健康診断書

(6) 国家試験合格証書又は医師免許証（写）

6. 研修方法

原則として総合診療方式（スーパーローテイト方式）を採用する予定

7. 選考方法

各科個別におこなう

詳細は、各科より出願者に通知する

8. 臨床研修許可発表

郵送をもって通知する

9. 臨床研修開始予定 平成13年5月1日（火）

なお、臨床研修実施にあたり医師国家試験発表後各科において打ち合わせを行い、平成13年4月27日（金）に全科合同のオリエンテーションを行う予定

10. その他

各科研修プログラムは別に定める

詳細についての問合せは下記まで

大阪医科大学附属病院 病院サービス課

TEL (0726) 84-6305 [直通]

平成12年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記のとおりです。

(平成12年4月～平成12年9月)

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率%	
			入院患者数	外来患者数
H12.4	(823.0) 24,689	(2,753.7) 60,581	△5.44	△6.70
H12.5	(808.4) 25,061	(2,892.3) 63,630	△6.11	9.67
H12.6	(851.9) 25,558	(2,835.9) 65,225	△5.43	2.39
H12.7	(855.1) 26,509	(2,867.5) 65,953	△2.76	△0.06
H12.8	(816.6) 25,315	(2,649.4) 66,235	△6.05	3.66
H12.9	(832.1) 24,963	(2,758.7) 63,451	△4.14	0.13
合計	(831.1) 152,095	(2,790.4) 385,075	△4.82	1.36

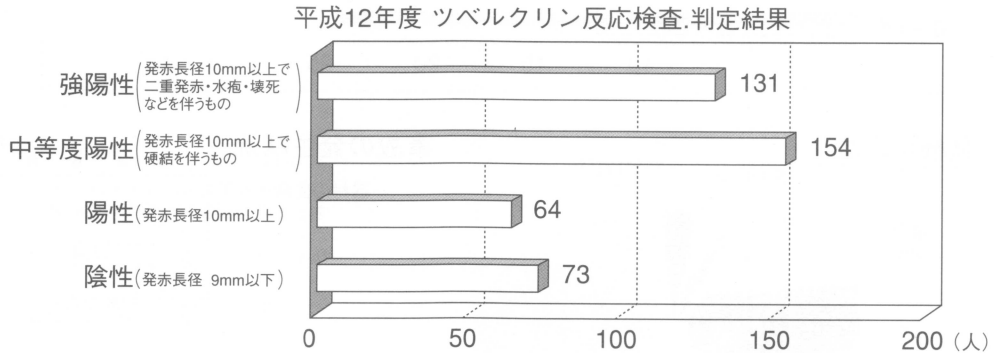
() 内は、1日平均患者数

*平成12年度上半期入院関係稼動日数 183日（平成11年度も同）

平成12年度上半期外来関係稼動日数 138日（平成11年度は137日）

■教職員ツベルクリン反応検査の結果報告

平成12年度より新採用者を中心に、毎年ツベルクリン反応検査を実施することになりました。今年は5月から7月にかけて、新採用者及び昨年検査を受けていない方を中心に、2段階法（2回ツ反をして、その人のベースラインとすること）で実施しました。検査を受けた422名のうち、強陽性者は131名で、そのなかの発赤長径40mm以上の人（45名）は胸部レントゲン撮影で発病の確認をしましたが、問題ありませんでした。昨年の陰性で、今回陽転し最近の感染が疑われる2名の方に、予防内服が開始されました。陰性者に対しては、BCG再接種の効果には疑問があり実施していません。陰性の方は、毎年ツベルクリン反応検査を行い感染の有無を確認していきます。

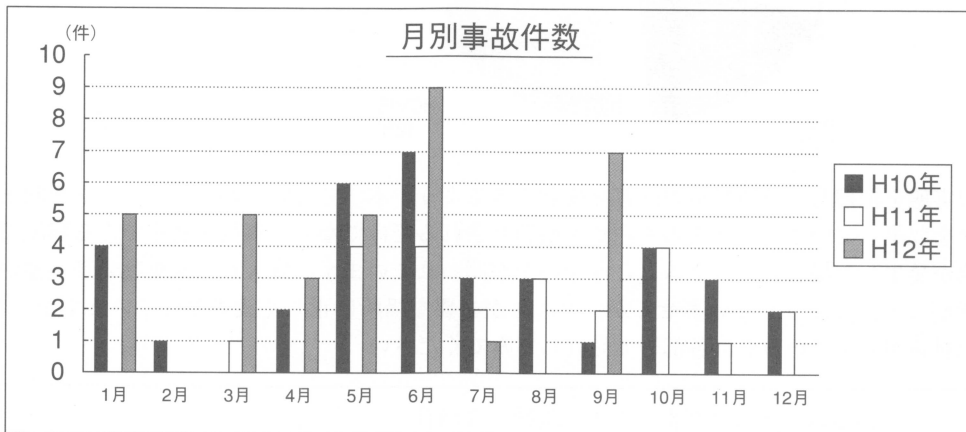


■針刺し・切傷事故届出状況報告

今年1月から9月の届出数は35件、一昨年の36件を上回るペースで報告がありました。

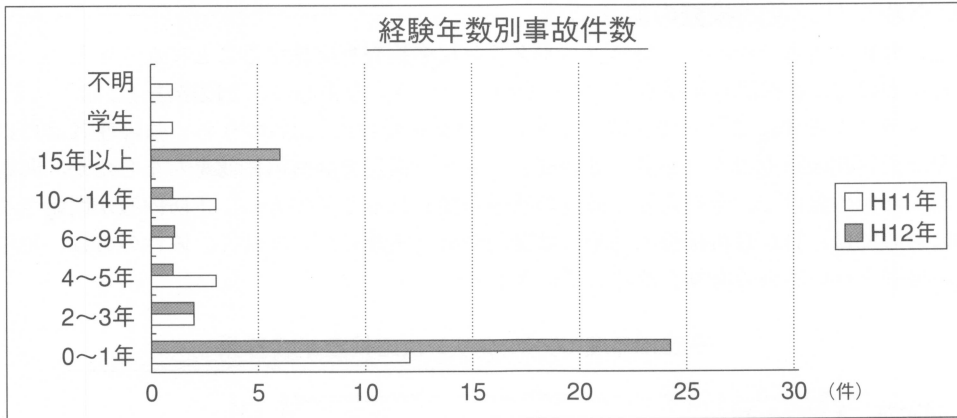
事故を起こした人の経験年数は、1年未満の研修医や看護婦で7割を占めますが、経験15年目以上の人の届出も目立ちます。事故の発生状況ではリキャップ時を上回り、手術中・器材を廃棄するまでの間に、多く発生しています。

件数が増えてきているのは、事故の報告ができる環境になってきたこと、針刺し事故への関心が高まってきたことなどが考えられます。しかし、報告の内容は危険性の高いHCV事故が多く、感染性の明らかでない事故は、報告が低い傾向にあるようです。

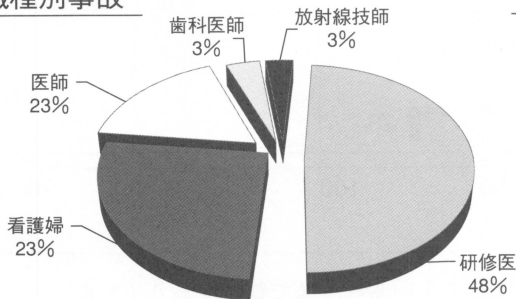


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H10年	4	1	0	2	6	7	3	3	1	4	3	2	36
H11年	0	0	1	0	4	4	2	3	2	4	1	2	23
H12年	5	0	5	3	5	9	1	0	7	—	—	—	35

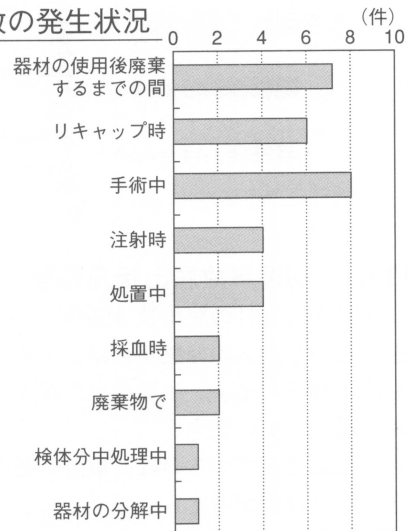
保健管理室からのお知らせ



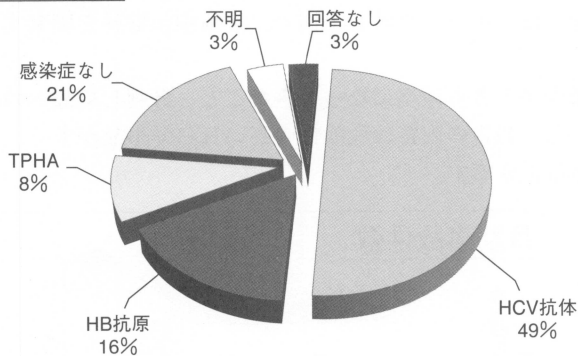
職種別事故



事故の発生状況



事故の汚染源



事故の実態を把握し、予防対策の内容を検討できるように、本学でも昨年からエピネットを利用し事故のデータを収集しています。個人の不注意が問題とされるだけでなく、事故を防止できる環境であったか、事故が発生した場合のシステムはどうかなどが問われています。針入れ・廃棄物処理容器がいつでも器材がはみ出したりしていませんか、それらが必要な場所に正しく設置されていますか。今一度、事故防止対策ができていないか、各部署で見直してみてください。

掲示板 ・ B型肝炎ワクチン接種 3回目
 12月6(水)、7(木) 午後2:30~3:30
 ・ B型肝炎ワクチン接種後抗体検査
 平成13年1月17日(水)、18(木) 午後2:30~3:30
 場所はいずれも第10会議室

◆大阪医科大学俳句会（六／七／八月）

宇治螢点滅先陣争はず

塚本務人

秋鯖は花折峠に限りたり

今井雄介

海女憩ふ人魚が坐る岩の上

古川洋子

水貝や河岸の気つ風の祭笛

中川一成

青嵐夫婦狸が風呂のぞく

梶野興三

薬医門初心忘るな青かへで

梶野香代子

西瓜にも仏滅ありて白き種

大槻哲彦

白桃や背に子午線のかぼみあり

奥田筆子

燃え残る茶筌供養や若楓

吉田孝江

盆の月海より低く住む不安

飯塚久子

人格が砕け散る日よ土用波

美濃眞

ウルトラマン仁王立せし花野かな

山崎隆司

羅の母に離れて父立てり

（投稿）

宮脇芳美

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町2-41
大阪医科大学さわらぎキャンパス
俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

お詫びと訂正

前回発行の45号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P.2（学校法人大阪医科大学施設計画事業本部の設置について）

本部付理事の項から平井 博理事が漏れておりました。

大阪医科大学俳句会では、この度、これまでの活動をまとめた句集、「蝮むすび」を刊行致しました。



大阪医科大学70年史刊行



この度、本学創立70周年記念事業の一環として大阪医科大学70年史を刊行致しました。

大阪医科大学70年史は、先に刊行された大阪医科大学50年史以降の20年間(昭和52年10月～平成9年9月)の本学や附属施設の歴史を中心とした年表・所属史などで構成しております。

なお、ご希望の方には下記のとおり販売(窓口及び通信販売)致します。

販売価格 1部 4,000円(消費税・送料込)

販売方法

窓口販売 総務部総務課(本館・図書館棟1階)窓口にて代金をお支払い下さい。

通信販売 次の1)、2)いずれかの方法をお選び下さい。

- 1) 現金書留で下記住所に代金を送付して下さい。その際、必ず送付先住所、氏名、電話番号、購入部数を明記したメモを同封して下さい。

〒569-8686 高槻市大学町2番7号

大阪医科大学総務部総務課

〔70年史販売係〕宛

- 2) ハガキに送付先住所、氏名、電話番号、購入部数をお書きのうえ

〒569-8686 高槻市大学町2番7号

大阪医科大学総務部総務課

〔70年史販売係〕宛

にお送り頂くとともに最寄りの郵便局で代金を払込んで下さい。

※その際、払込取扱票の各項目には以下のとおり記載して下さい。

口座番号 00940-8-319151

加入者名 学校法人大阪医科大学

通信欄 大阪医科大学70年史代金

(払込人住所氏名は必ずご記入下さい。)

なお、70年史は、代金の払込が確認された段階で発送致します。



大阪医科大学学報 第46号
発行年月 平成12年11月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総務部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>